

第三地区防災訓練が行われました

まちづくり協議会主催の第三地区避難所運営訓練が十月六日(土)・七日(日)に源池小学校で行われました。3年ぶりとなった今回の訓練は、源池小学校のPTAと初めての共同開催となりました。

一日目の午前中は源池小学校体育館において、小学生の発表や講演・日赤奉仕団によるアルファ米と豚汁の配食訓練が行われ、午後は消防特殊車両や、がれき救助・煙テント・AED等の体験コーナーが設置されました。その日の夜は、実際に体育館・テント・自動車での宿泊体験も行われました。

この二日間にわたる大規模な訓練は、500名を超える大勢の参加者により、大変意義のあるものとなりました。



がれき救助体験の様子



小学生の発表の様子



宿泊体験の様子



配食訓練の様子



防災グッズの見学の様子



参加者の声から

◆西小松 40代 女性

身内が被災地(札幌や熊本)にいたため防災についてとても気になっていたのでいい体験ができ勉強になった。

◆四ツ谷 30代 女性

災害について考えるいい機会となった。早速我が家の備蓄を見直してみたい。

◆東長沢 70代 男性

一堂に会してやったのがいい。経験することが大事。食べ物も思ったよりおいしかった。

◆県町北 40代 男性

集まってみると体育館が狭く感じた。実際の災害ではもっと人数が増えるだろうからキャパ(収容能力)が足りていない。近くに段ボールベッドなどを備蓄する倉庫が必要。

◆四ツ谷町 小学3年 男子

スタンプラリーができて楽しかった。

◆四ツ谷東 小学3年 女子

難しくよく分からなかったけど、ごはんがおいしかった。

第三地区作品展

第19回第三地区作品展が11月10日(土)・11日(日)に松本市勤労者福祉センターの大会議室で開催されました。今年度も12町会からたくさんのお出展があり、あがた児童センター、あがた保育園、鈴蘭幼稚園、清水小学校、源池小学校、清水中学校の子どもたちの作品も展示されました。



清水中学校地域学習 まち歩きをしました

十月二十五日(木)、清水中学校一学年の生徒の皆さんが建築家や都市計画家の方を講師に、周辺のまち歩きをしました。地区の歴史等が分かるポイントを見て回り、学習しました。



蚕糸公園の石碑



イオンモール空庭 生物科 学所レブリカの前

生徒の感想

● 私はこのまち歩きに参加して、いままで何気なく通っていた通学路や、自分の家の周りには歴史的な造りをした建物がたくさんあるんだと思いました。井戸のことや、カフラスのことを中心に、この松本の良さをたくさん教えてくれたので、とても勉強になりました。

● 今回のまちめぐりでは、多くの方々のおかげで、普段何気なく通る道や場所にも、いろいろな意味や思いがあることが分かりました。今回、学んだ事を伝え、一人でも多くの人に松本の魅力について知ってほしいと思いました。

● 僕は、町めぐりをおこなったことで、自分の住んでいる町なのに知らないことが多いなと思いました。特に、蚕糸公園が昔、絹糸の研究所でその奥が全面桑畑だったということが一番驚きました。今回の学習は、地元について知る良い機会となりました。

● 町めぐりを通して、僕は、もともと好きだった松本の町が、もっと好きになりました。あがたの森にある、旧制高等学校のことや、戸田家廟園には家康の妹の墓があること等、新しい発見ができてとても良い町めぐりでした。

世代間交流運動講座

十月二十日(土)、あがた運動公園多目的広場において、第三地区体育委員会主催の世代間交流運動講座が開催されました。



二人三脚パン食い障害物リレーの様子

ふれあい会食会

十月五日(金)、一人暮らしの高齢者をお迎えして、ふれあい会食会が開かれました。今年もあがた保育園の園児たちのキッズソーランや、



素晴らしい歌声

今回は、近隣の小中高等学校の皆さんにも来ていただき、合計60名を超える参加者となりました。二人三脚パン食い障害物リレーやグラウンドゴルフ等で、世代を超えて楽しく交流ができました。



グラウンドゴルフの様子

声楽家の増田徹夫さんによる歌声が、ピアノの福嶋るみさんの伴奏と共に会場内に響き渡り、来場した皆さんは食事と共に楽しいひとときを過ごしました。



あがた保育園児の発表の様子

湧き水

朝の報道番組で自動運転車の話題を取り上げていた。現在は「レベル2」の段階だそう。見ていたら、ふと昔のことが思い出された。

あの頃は上諏訪から松本まで列車で二時間かかったのだ。母が白内障にかかり、私が小六と中一の時、松本で右眼と左眼、二回に分けて手術を受けた。私も寒中休みに布団などをチッキで送り、入院中は母に付き添って自炊生活をした。その間、よく松本の街も一人で歩いた。街には水原弘という歌手の「黒い花びら」がしきりに流れていた。入院はそれぞれ三週間に及んだ。♪黒い花びら静かに散って、その花びらを『河面に映して流れる月日』を思う。私にも白内障の兆しが表れてきたが、治療法も著しく進歩したようだ。「昔は大変だった、今はありがたい」と思う一方、失ってしまったものは、と考えながら『思い出のあの日に続くこの道』をたどる。それにしても、「完全自動運転化」された世の中では、人びとは日々どのような暮らしをしていることだろう。(花岡 祐吉)